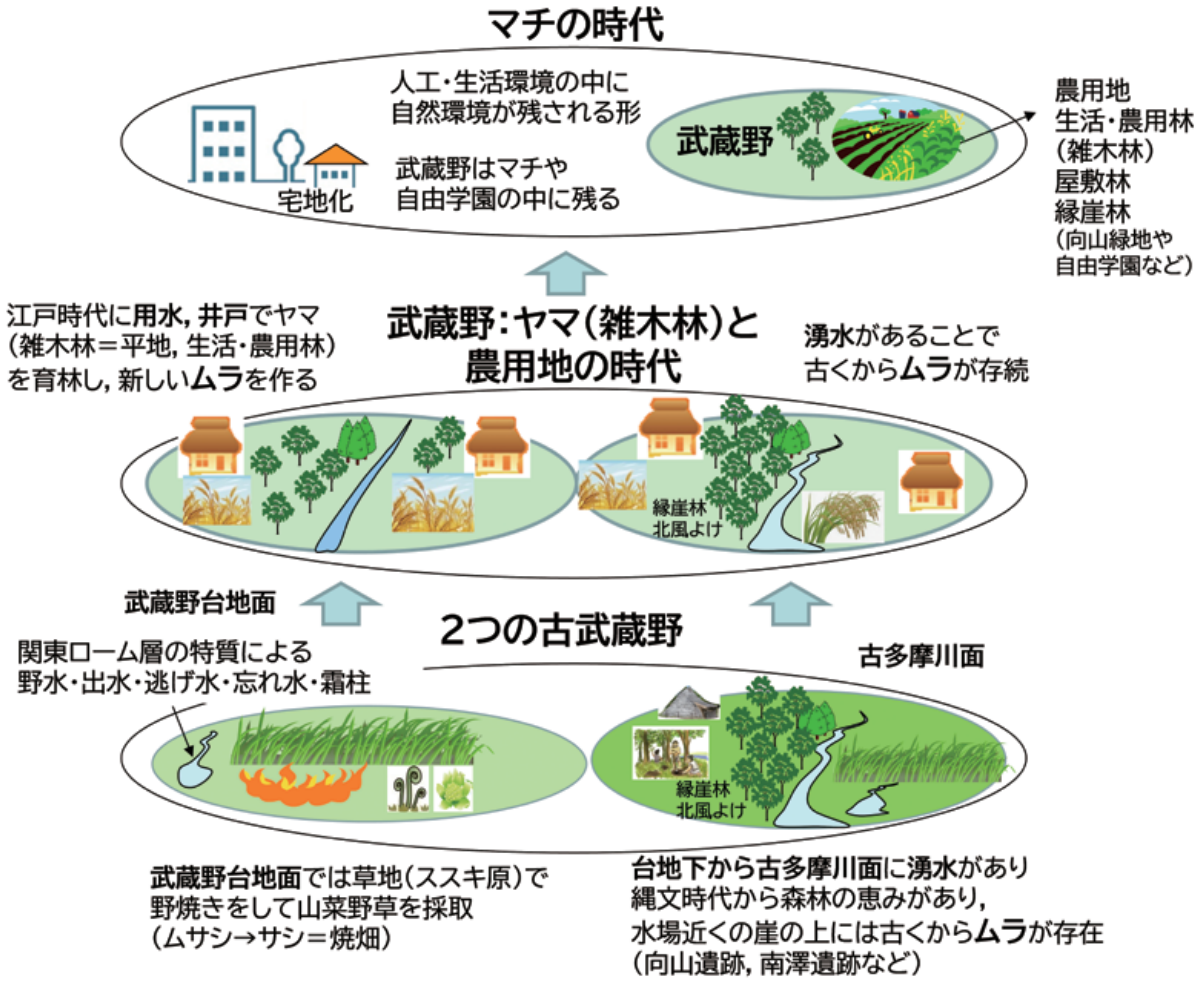
コラム2

東久留米の土地の履歴

変化に富む東久留米市の景観は、古多摩川面と武蔵野台地面の2つの土地の歴史によってもたらされたものです。

富士・箱根の火山灰が降り積もった武蔵野台地面と湧水と川によって火山灰が流された古多摩川面では土壌の質などによって植生に違いが生まれました。がけ上を含む古多摩川面には、古くから湧水と森林が広がり、森や川の恵みを得てムラが開けました。（向山遺跡では、縄文前期・中期（約3,500 ～ 6,000年前）になって出てくる縄文ムラ（環状集落）がその1,000年以上も早い縄文時代早期末葉（約6,000年前～）に見られます。）

また、水の乏しい武蔵野台地面では、古くから草地での野焼きによる山菜採取などの恵みを得るべく、利用しやすい環境として草地を維持してきました。かつては、自然環境の中に人間の人工・生活環境があったわけですが、現在は、都市化して、地域での土地利用の比率からみると、逆の関係になったことになります。色々な生きもののすみかでもある地域に残された水と緑と土を保全したいものです。（資料3　東久留米市の土地の成り立ち も参照。）



出典：（学）自由学園（杉原弘恭）